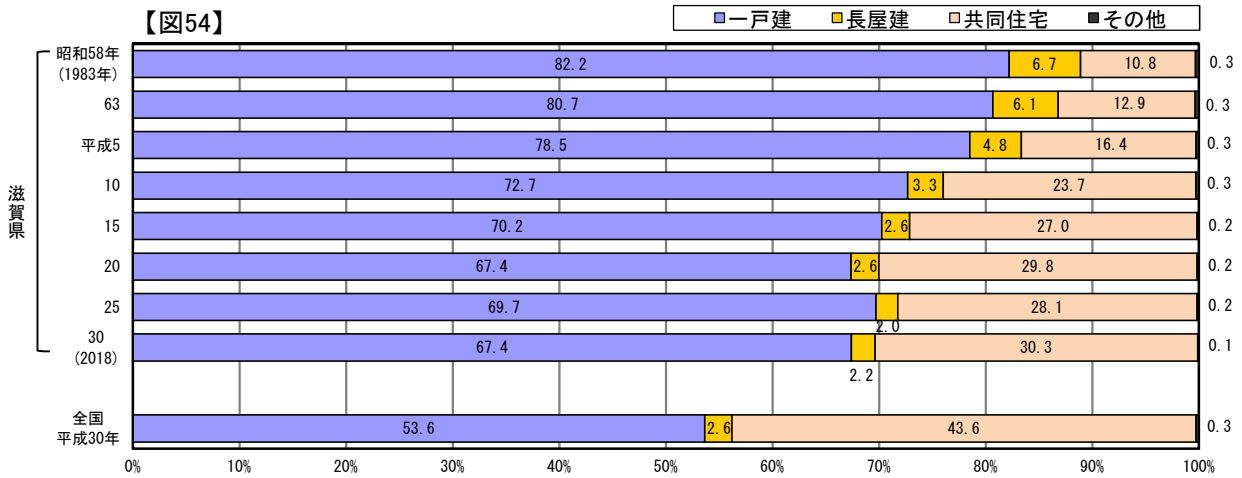


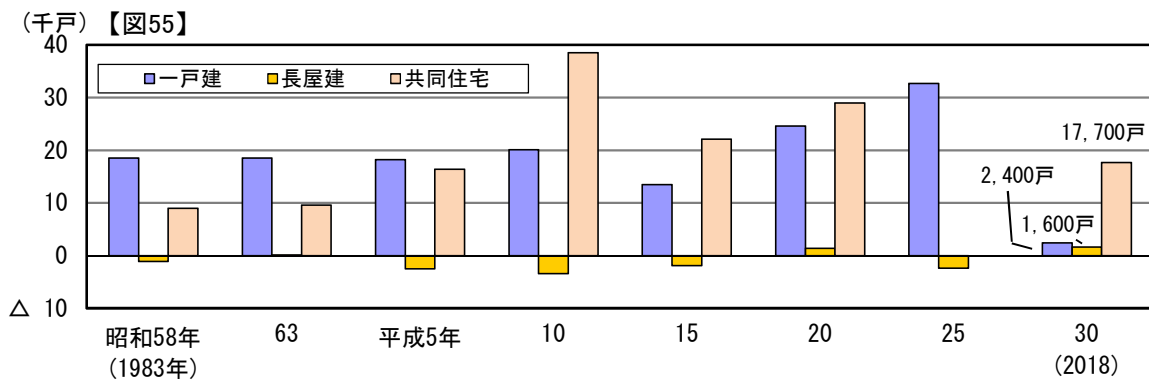
生活・環境

■住宅の建て方別割合の推移



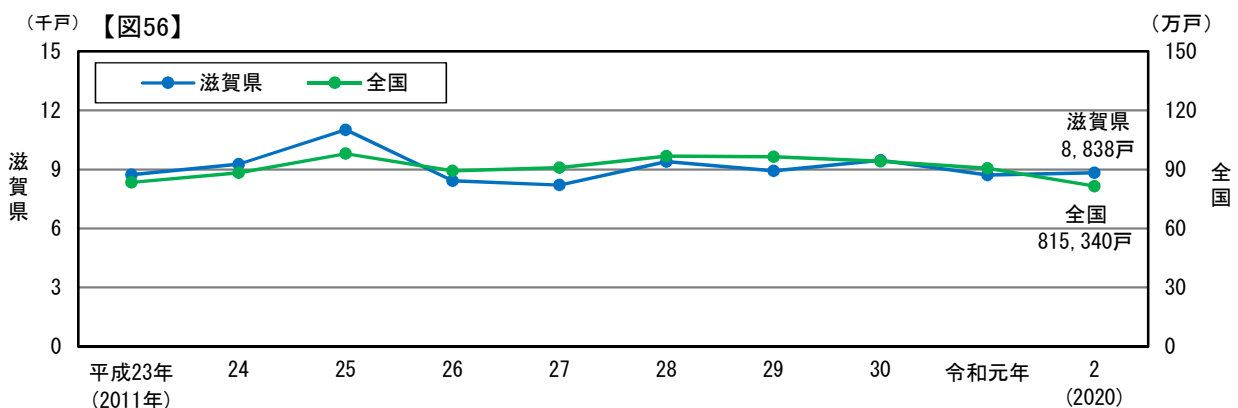
「住宅・土地統計調査」総務省統計局

■住宅の建て方別増加数の推移



「住宅・土地統計調査」総務省統計局

■住宅着工戸数の推移



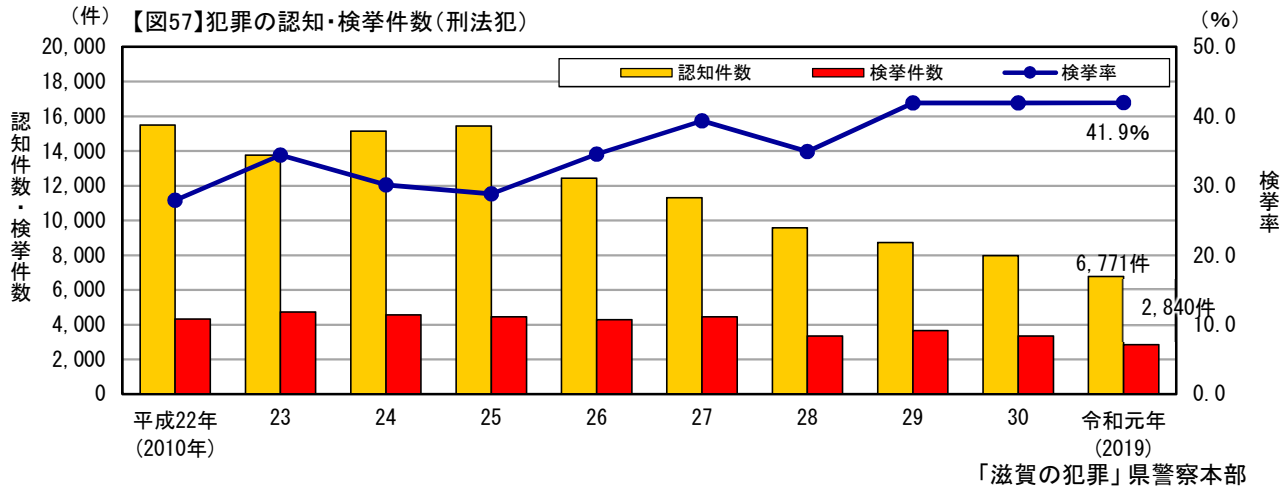
「建築着工統計調査」県建築課、国土交通省

・住宅を建て方別にみると、平成30年の居住世帯のある住宅543,000戸のうち、一戸建は67.4% (366,100戸)を占め、共同住宅は30.3% (164,300戸)となっている。(図54)

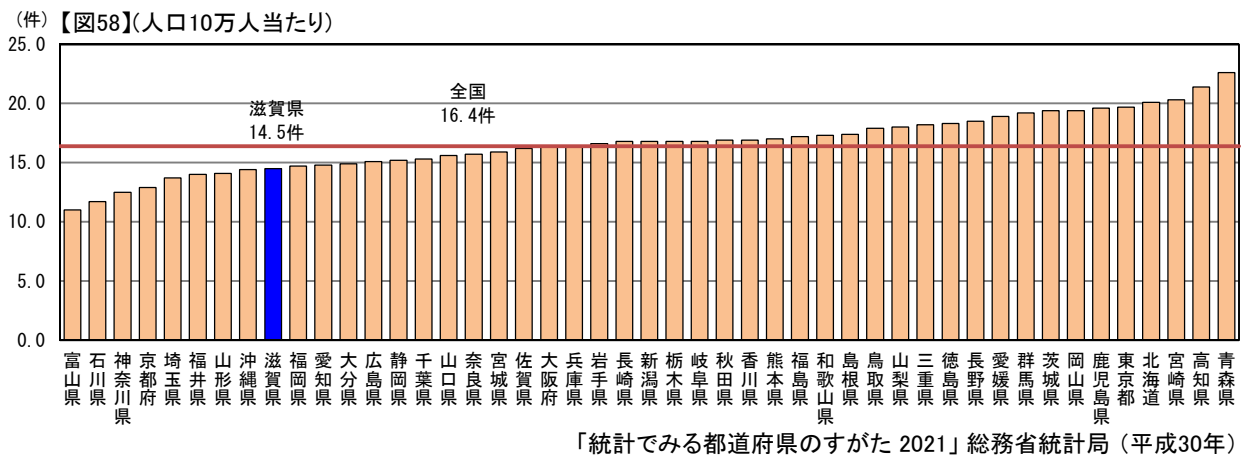
・建て方別増加数の推移をみると、平成25年には一戸建が大きく増加したものの、平成10年以降、概ね共同住宅が一戸建を上回った。(図55)

・令和2年の住宅着工戸数は8,838戸で、前年より126戸増加した。(図56)

■ 犯罪件数



■ 建物火災出火件数



くらしの数字

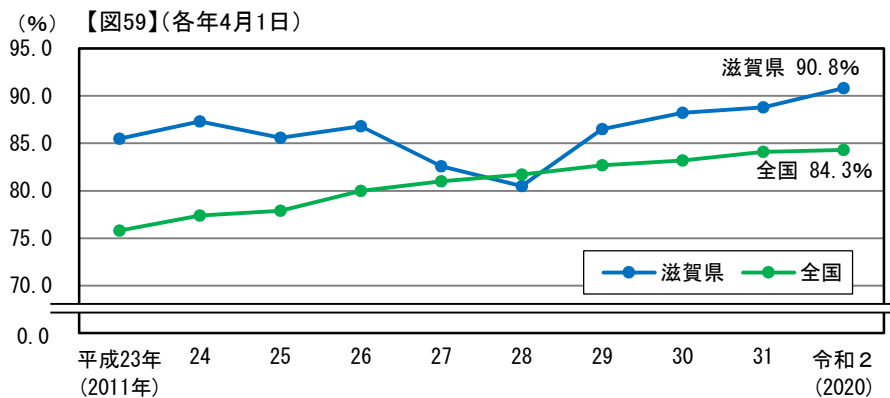
震度1以上を観測した地震
16回
(令和元年)

「滋賀県の地震」
彦根地方気象台

救急活動
『出動件数』 65,465件
『搬送人員』 61,046人
(令和元年)

「令和2年版 消防白書」
総務省消防庁

■ 自主防災組織活動カバー率^{*1}の推移



*1 自主防災組織がその活動範囲としている地域の世帯数を、県内世帯数で除したもの

「消防白書」 総務省消防庁

・犯罪認知件数は近年は減少傾向にあり、令和元年は6,771件と減少した。検挙率は41.9%で3年同率が続いている。(図57)

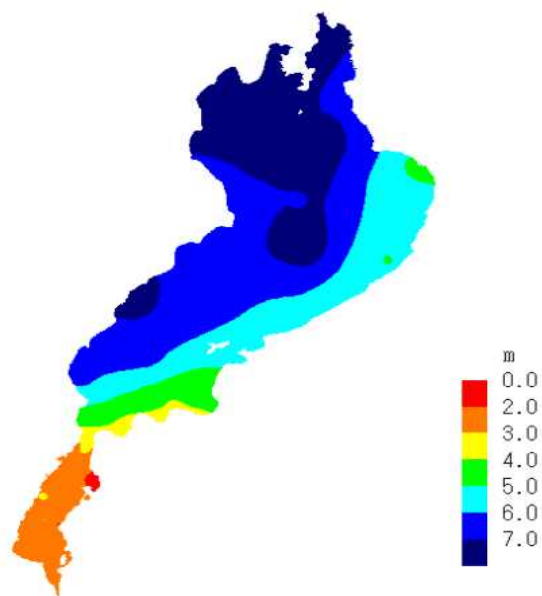
・平成30年の人口10万人当たり建物火災出火件数は14.5件で、全国平均(16.4件)を下回っている。(図58)

令和2年4月1日現在の自主防災組織活動カバー率は90.8%となり、全国平均(84.3%)を上回っている。(図59)

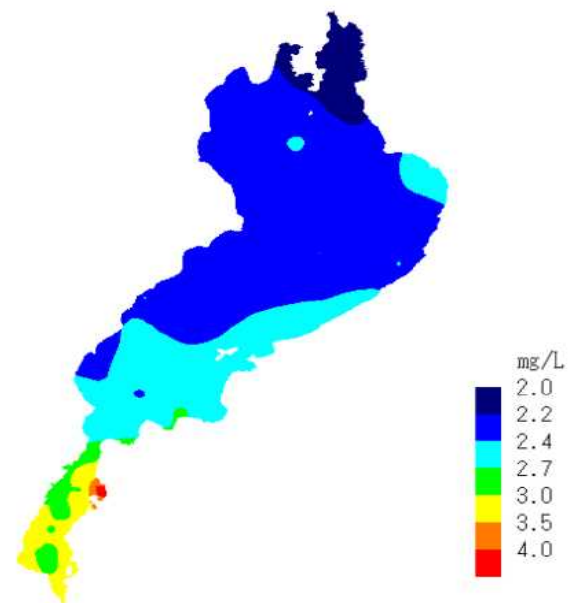
琵琶湖の水質状況

透明度、COD、全窒素(T-N)、全りん(T-P)の平面分布(令和元年度の年度平均値)

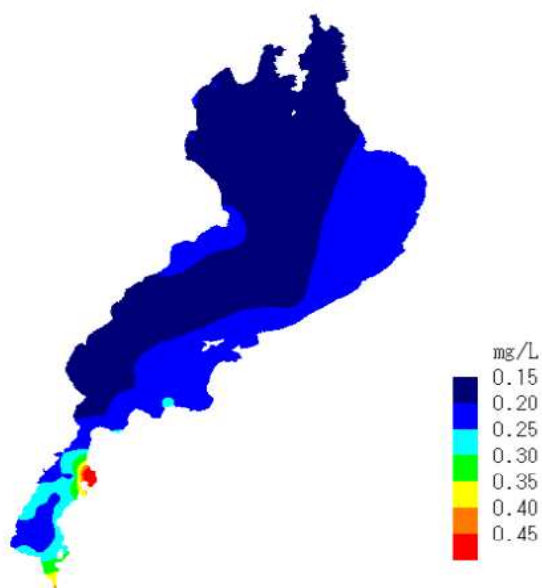
【図60】 透明度



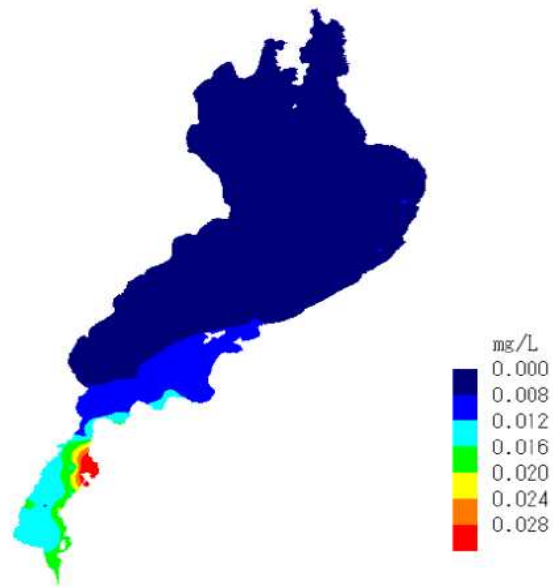
【図61】 COD(化学的酸素要求量)



【図62】 全窒素(T-N)



【図63】 全りん(T-P)

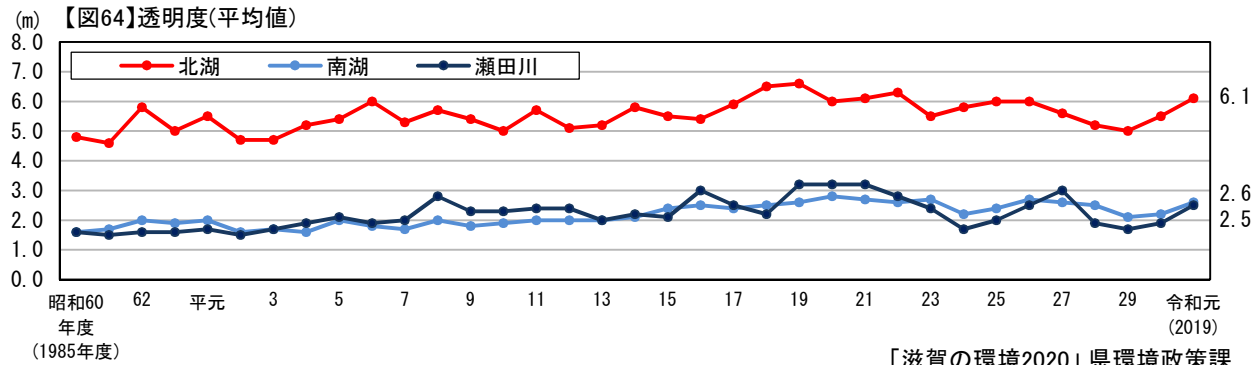


「滋賀の環境2020」県環境政策課

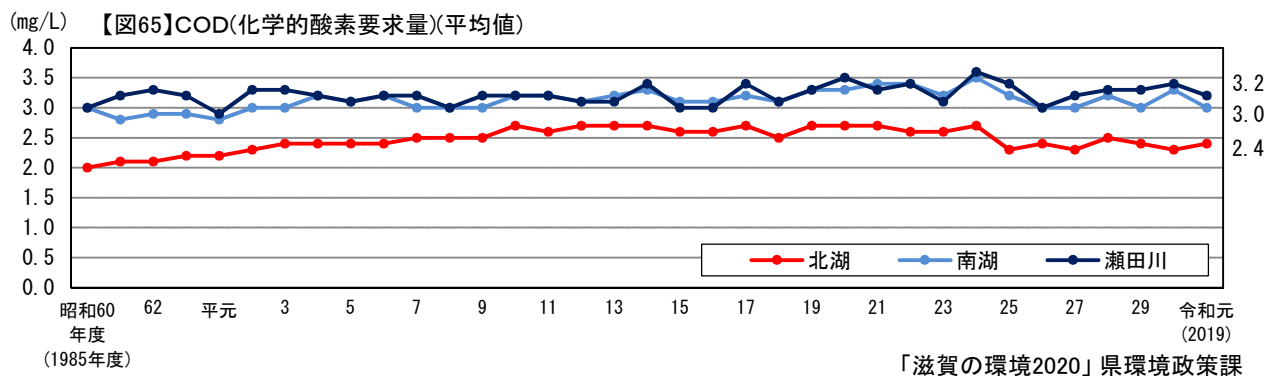
・琵琶湖水質の平面分布をみると、北湖中央部から北西部は他の水域に比べ、透明度が高く、COD(化学的酸素要求量)、全窒素(T-N)、全りん(T-P)の値が低くなっている。
一方、南湖(特に東部)では透明度が低く、COD、全窒素(T-N)、全りん(T-P)の値が高くなっている。(図60)(図61)(図62)(図63)

透明度、COD, 全窒素(T-N)、全りん(T-P)の経年変化

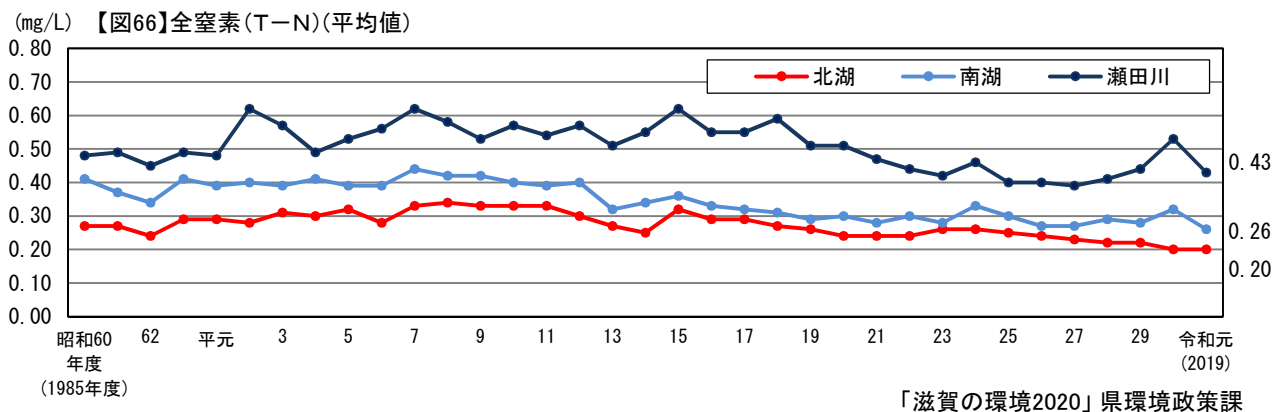
【図64】透明度(平均値)



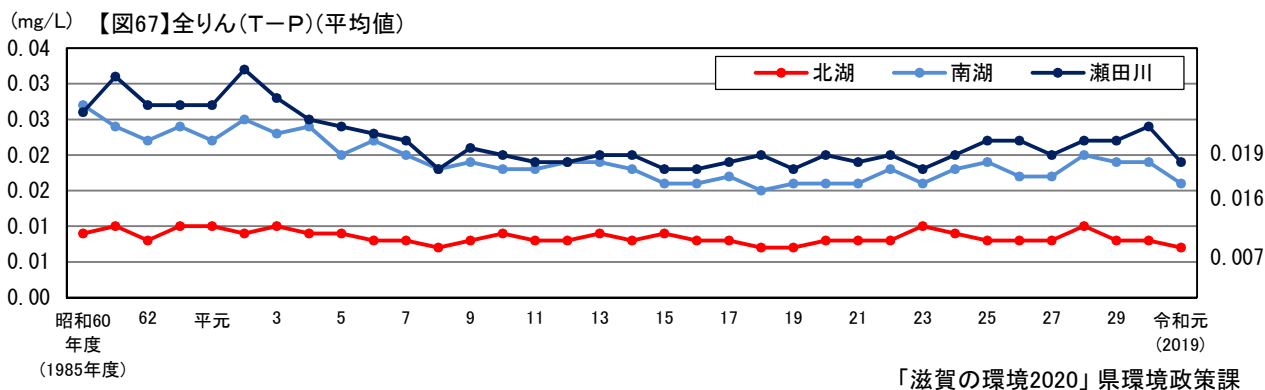
【図65】COD(化学的酸素要求量)(平均値)



【図66】全窒素(T-N)(平均値)



【図67】全りん(T-P)(平均値)



・令和元年度の琵琶湖の透明度は、北湖、南湖、瀬田川のいずれにおいても前年度より高い値である。(図64)

・令和元年度のCOD、全窒素の値は、北湖を除き前年度より低い値となっている。(図65)(図66)
全りんの値は、いずれにおいても前年度より低い値となっている。(図67)

